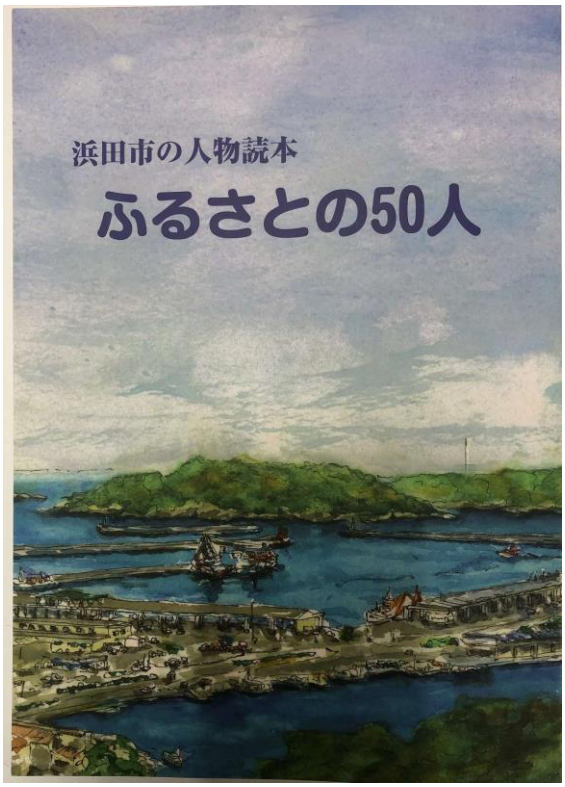
第２３号　　2023 年（令和５年８月２５日）浜田水産高等学校図書館発行

浜水高

図書館だより

学校のまわりの歴史を知ろう（１）



1526 年（大永６年）に現在の浜田の市街地で出雲の尼子経久と山口の大内義興が闘っています。これを天満畷の戦いといいます。天満畷は現在の天満町にあった通りです。天満町の南側の三階山など山側に大内義興の陣があり、海側の亀山（城山）から浜田川をはさんで、浜田水産高校の敷地や瀬戸ヶ島の対岸に尼子経久の陣がありました。瀬戸ヶ島は大内勢がおさえていたので、尼子の本陣は瀬戸ヶ島ではなく対岸にありました。

浜田の郷土史家、大島幾太郎さんの『那賀郡史』によれば、尼子経久の本陣があったのは「瀬戸細腰」呼ばれるところで、昔の地図をみれば瀬戸ヶ島の対岸の大辻町から港町、浜田水産高校のあるあたりにかけてのようです。大内義興の本陣があったのが三階山のあたりだったので、それが見える場所としては、原井小学校の裏山の高尾山か浜田水産高校の校舎のある場所が挙げられます。

浜田水産高校の近くに下山稲荷神社があり、港町の氏神です。下山稲荷神社は尼子経久が武運を祈るために、鳥取県の大山山麓の下山というところにあった稲荷神社を浜田にもってきたものです。大山の下山は下山キャンプ場や下山駐車場があるところです。武運を祈るための下山稲荷神社の近くに尼子経久の本陣があったのではないでしょうか。

「浜田市の人物読本　ふるさとの 50 人」には本校初代校長の丸川久俊先生や　郷土史家の大島幾太郎さんが収録されています。

ニュースをよむ

処理水放出　万全の態勢で風評被害を防げ

　東京電力福島第一原子力発電所の敷地内に貯蔵されている処理水を、２４日に海洋放出することが決まった。廃炉に向けて大きな節目となる。

　岸田首相は、福島第一原発を訪れて処理水の放出設備を視察した後、全国漁業協同組合連合会（全漁連）の会長と面談し、放出の開始を最終決断した。処理水を巡っては、国際原子力機関（ＩＡＥＡ）が７月、「国際的な安全基準に合致している」とする報告書をまとめ、放出に向けた環境はすでに整っていた。放出を引き延ばす意味は薄く、迅速に対応したのは適切である。

　報道各社の世論調査では、海洋放出に賛成する人が反対する人を上回るようになっている。全漁連も、最後まで放出に反対する立場は変えなかったが、「科学的な安全性への理解は深まってきた」と一定の理解を示した。

　地元では沖合底引き網漁が９月から始まるという。政府や東電は放出開始後、海洋の安全性を示すデータを迅速に公表し、風評被害の防止に努めてもらいたい。

　データの公表で問題がないことが実証されれば、国内外の懸念を払拭（ふっしょく）するのに役立つだろう。今後は、東電が処理水の放出設備を適切に管理し、安定して放出作業を続けることが重要になる。トラブルが発生した場合も速やかに対処し、情報を開示するなど透明性の高い運用が求められる。　処理水の処分方法を巡っては、事故から１０年以上、議論が続いた。なかなか結論が得られなかったのは、トリチウムを含む処理水が健康被害を引き起こすのではないかと不安を持つ人がいたためだ。トリチウムはもともと、自然界にも存在しており、基準値以下の量なら海に流しても環境に影響はない。各国の原子力施設からも海洋放出されている。福島第一原発の廃炉を進めるうえで、処理水の放出は避けて通れない。　中国は処理水を「汚染水」と呼び、日本から輸入する全ての水産物を対象に放射性物質の検査を始めた。こうした不合理な措置には、日本政府が科学的な根拠を示して反論していかねばならない。　政府は国内についても、誤った情報が広がらないよう、継続的な情報の発信に努めるべきだ。　福島は、原発事故の影響で復興が遅れている。ここで海産物の消費が落ち込むようなことになれば、さらに大きな打撃を受ける。処理水の放出は長期に及ぶ。政府には、安全性を繰り返し説明する努力が求められる。（2023.8.23 読売新聞）

三刀屋高掛合　ドキュメンタリー映画続編「メロスたち」上映へ　都内で18日　演劇同好会のその後迫る

　三刀屋高校掛合分校（雲南市掛合町掛合）演劇同好会の奮闘を描いたドキュメンタリー映画「走れ！走れ走れメロス」の続編「メロスたち」が１８日、東京都の下北沢映画祭で初上映される。一人芝居に挑んだ同好会の曽田昇吾さん（１９）を中心に、前作で取り上げた部員たちのその後に迫った。

　「走れ！走れ走れメロス」は、それまで演劇と無縁だった男子生徒4人が太宰治の「走れメロス」を題材にした演劇に挑む姿を追い、昨年の下北沢映画祭で四つの賞に輝いた。続編では、その後、一人芝居に挑み、中国大会で好成績を収めるなど活躍し、卒業後に名門劇団・文学座の研究生になった曽田さんを追った。今年3月、卒業を前に4人が再び集まり、大勢の観客を前に都内や松江市で公演を行った場面も取り上げている。

　前作から、より4人の関係性に注目し、演劇を通しどんな感情を抱いたかをインタビューでひもといた。折口慎一郎監督（35）は「3年間という短い生活の中でチャレンジする若者がいることを知ってほしい」と話した。

　初上映は、18日午前11時から、世田谷区の北沢タウンホールである。上映後、折口監督が舞台あいさつする（2023.9. 15 山陰中央新報）

一票の格差「最大 3.03 倍」は違憲か　22 年参院選、最高裁で弁論

「一票の格差」が最大 3・03 倍だった昨年 7 月の参院選は投票価値の平等を求める憲法に反するとして、二つの弁護士グループが選挙無効を求めた計 16 件の訴訟で、最高裁大法廷（裁判長・戸倉三郎長官）は 20 日、当事者双方の意見を聞く弁論を開いた。年内に統一判断が示される見通し。

一票の格差は、議員定数 1 あたりの有権者数が選挙区ごとに違うことで投票価値に差が生じる問題。今回の参院選の定数 1 あたりの有権者数は、最少の福井選挙区が約 31 万 7 千人で、最多の神奈川選挙区は約 96 万 2 千人。格差は 3・03 倍で、神奈川の人の票は福井に比べ「0・33 票」の価値しかない計算になる。

訴訟は全国の高裁・支部で 16 件起こされ、高裁の判断は「違憲」1 件、「違憲状態」8 件、「合憲」7 件だった。前回 2019 年の参院選（最大格差 3・00 倍）に対する高裁判決は「合憲」14 件、「違憲状態」2 件だったのに比べ、厳しい判断が大幅に増えた。前回は「合憲」とした大法廷の判断が注目される。（2023.9．20　朝日新聞）